

中海水産振興シンポジウム 2008

中海のサルボウガイ復活案の提唱 - 環境保全と漁業の両立を目指す -

[主 催] 中海水産振興シンポジウム実行委員会・島根大学汽水域研究センター

[共 催] 島根県・鳥取県

[日 時] 平成 20 年 1 月 12 日 (土) 13:00 ~ 15:30

[場 所] 松江テルサ 4F 中会議室 (松江市朝日町 478-18)

[趣 旨]

国内で 5 番目に大きい総面積 86.2 km² の汽水湖である中海は、環境省の自然環境保全基礎調査では、栄養塩類濃度が高く生物生産活動が活発な富栄養湖に分類されている。その中海における生物生産活動のシンボリックな生物種がサルボウであり、1940 年代には国内唯一の天然採苗水域として各地のサルボウ漁場に稚貝が移植されていた。しかし、1950 年代以降は、農薬や生活環境の都市化に伴う生活排水などの流入により、富栄養化が進行して水底質の累進的汚濁や湖底の貧酸素化を招き、サルボウの生息環境が急速に悪化した。さらに、1963 年からの干拓・淡水化事業では、湖形状が改変され、環境悪化も一層深刻化した結果、1977 年の 2 トンを最後に 1978 年以降はサルボウ漁獲量が統計から除外された。一方、現在でも、生息域は限られるものの、天然採苗によって稚貝が収集できるなど、資源復活の潜在能力は十分であると推測されている。そのような状況の下、2002 年に淡水化事業は中止となり、2009 年までに中浦水門の撤去および森山堤の開削が完了する。これにより中海の環境が改善し、サルボウ資源の復活と漁業の再生が期待されている。本シンポジウムでは、変わりゆく中海の環境の中、サルボウの側から見た環境保全と漁業再生のためのビジョンやシナリオを考えたい。

[プログラム]

- | | | |
|---------------|----------------------------|-----------------------------|
| 13:00 ~ 13:05 | 開会の辞 | 高安克己 (島根大学副学長) |
| 13:05 ~ 13:15 | 中海のサルボウガイ復活案の提唱 | 荒西太士 (島大汽水域) |
| 13:15 ~ 13:45 | 基調講演「環境と水産業の再生をめざす英虞湾の取組み」 | 松田 治 (広大名誉教授) |
| 13:45 ~ 14:00 | すばらしい中海を取り戻す | 石倉正夫 (中海漁協) |
| 14:00 ~ 14:15 | 中海におけるサルボウの生息環境と環境耐性 | 山口啓子 (島大生資) |
| 14:15 ~ 14:30 | サルボウは中海のどこで暮らせるのか? | 宮本 康 (鳥取衛環研) |
| 14:30 ~ 14:40 | 休 憩 | |
| 14:40 ~ 14:55 | 中海におけるサルボウガイの履歴書 | 沖本宜音・荒西太士 (島大汽水域) |
| 14:55 ~ 15:10 | 内湾・内海域における二枚貝浮遊幼生の分散と回帰 | 浜口昌巳・堀 正和・上村了美 (瀬戸内水研) |
| 15:10 ~ 15:25 | サルボウガイの天然採苗試験 | 後藤悦郎・道根 淳 (島根水技) |
| 15:25 ~ 15:30 | 閉会の辞 | 荒西太士 (中海水産振興シンポジウム実行委員会委員長) |

[中海水産振興シンポジウム実行委員会]

荒西太士 島根大学汽水域研究センター環境変動解析分野教授
田中伸和 島根県水産技術センター内水面浅海部部长
古田晋平 鳥取県栽培漁業センター所長